

芸術の秋

響き渡る音色と歌声

小中学校音楽発表会が、10月20日(水)、21日(木)の二日間流山市文化会館で実施されました。昨年度は新型インフルエンザのため中止された経緯があり、2年ぶりの実施となりました。天候はあまりよくありませんでしたが、それを吹き飛ばすような、力のこもった合唱、吹奏楽、金管楽の演奏がおこなわれました。各学校とも毎日の練習の成果が十分表れていました。

今年度初めての試みとして、新川小学校と北部中学校合同で、ヴァイオリンを中心とした弦楽合奏の披露がありました。また講師の田嶋勉先生の指揮のもと、全員で、心一つにして田嶋先生作曲の「サウザンドリーブス」の合唱をしました。演奏態度も立派でしたが、舞台裏でさばきと動く中学生の姿は小学生のお手本となっていました。来年はどんな発表会になるのか今から楽しみです。



教育トピックス

スポーツの秋

実りの秋

お米の収穫に感謝

子どもたちの作った“かかし”に見守られながら、子どもたちの植えた苗がすくすく育ち、9月には一斉に稲刈りが始まりました。

どの学校も地域の方々や支援していただきながら慣れない鎌を使い、収穫の喜びを体験しました。西深井小学校では、給食や試食会でだされ「5年生が収穫したお米、一粒も残さないねえ。」と、保護者の声。西初石小学校では、家庭にも持ち帰り、家族で米作りの苦勞や喜びが話題になりました。南流山小学校では、参観日に、指導して下さった方への感謝の会を実施しました。八木南小学校は、お米にまつわる様々なことを調べ、調理実習にも使いました。

新川小学校は、11月20日の新小祭りで藁を使い、わらじつくりや正月飾りに挑戦しました。

5校による「このまちごはんプロジェクト」たくさん感謝がありました。来年が楽しみです。



市内小学校ミニバスケットボール大会

市内小学校ミニバスケットボール大会が、11月4日、6日、11日の3日開催されました。

各チームとも練習の成果が発揮され、小学生とは思えない素晴らしいプレーが続出しました。また、学校が一体となった応援も素晴らしいものでした。

大会は、接戦の末、東小学校が男女とも連覇を果たしました。

男子	優勝	東小	準優勝	東小
女子	優勝	東小	準優勝	東小
	3位	向小	3位	向小
		新川小		新川小



2年連続入賞

～たすきに思いを込めて～

第64回東葛飾地方中学校駅伝大会が、10月23日(土)、穏やかな天候の中、70校が参加し、実施されました。流山市内中学校8校も約32kmの区間を各校10名のランナーが沿道の声援に後押しされながら、たすきをつなぎ、次々と完走しました。

東部中学校が、トップとは2分42秒差の1時間43分3秒で、昨年に引き続き、見事8位に入賞しました。



かけがえのない命との出会い

ピオキッズ10

地球には3000万から4000万といわれるほどたくさんの生き物が暮らしています。この生物多様性を守るために「COP10」が開催されましたが、流山でも子どもたちを主役として楽しく学ぶ「ピオキッズ10」が10月6日(土)に流山市生涯学習センターで開催されました。

環境学習体験発表会には市内の小学校3校が参加し、ピオトープの様子、活動について発表しました。

流山北小学校は、ピオトープにたくさんの生き物が集まること、中には温暖化の影響かナガサキアゲハなど流山では見ることのできないはずの蝶がやってきたことについて発表しました。西深井小学校はピオトープづくり隊を結成し、地域の方々と一緒に丸太で橋を架けたり、川を作ったりした活動について発表しました。植樹も行い、みんなが成人式を迎える頃には、自慢できる森に育っているだろうと話していました。東深井小学校は、運動会のため、ビデオでホテルの飼育について紹介しました。この日は屋外のイベントに流山小学校の吹奏楽部の演奏がありました。



向っ子ミュージアム in 科博

11月12日(金)、向小金小学校4年生全員が上野の国立科学博物館で保護者参加のもと、学習発表会を行いました。今回で、科博(上野)での活動は4回目になります。4年生は1学期から準備をはじめ、科博のコーディネーターやボランティアの方々も小学校を訪れ、子どもたちの活動に継続して携って来ました。当日は班ごとに日本館講堂で、大画面を背に「絶滅動物について」等の発表をし、その後テーマ毎に展示物の前でも発表を行いました。通りかかった一般の来館者も足を止めて聞いていました。子ども達は、ボランティアの方々のサポートもあり、無事に発表を終えることができ、満足げな様子でした。この連携事業は全国でも他に例を見ない新しい取り組みだそうです。代表児童からは、成果を他の学年や地域に生かしていきたいと力強い言葉を聞くことができました。



教育広報

真まごころ心

題字 鈴木 昭夫

第49号
編集発行 流山市教育委員会
TEL 04(7158)1111

“かかわり”の構築、再び

教育長 鈴木 昭夫



まもなく、二学期が終わります。昨年は新型インフルエンザの大流行で各種の活動が縮小されるなど影響を受けました。今年度は猛暑のため、運動会・体育祭を延期することとなり、県下において一石を投じる結果となりました。しかし、お陰様で、当日は、どの学校の子ども達も達もいい表情で演技や競技に取り組んでいました。また、暑さによる事故も皆無でした。

本市の小中学生は約1万2千名です。今、全国各地で生徒指導上の問題が取りざたされる中、流山市内の学校は比較的落ち着いています。児童生徒、見守り支えてくださる方々に感謝します。

今の子ども達は、授業後の課外活動や習い事、所属する団体での活動、そして県内外に出かけるなど、結構忙しく行動しています。家庭にあってもインターネット等に時間をさき、大人顔負けの多様な情報を得ている場合が少なくありません。しかし規範意識が未発達です。大人社会もまた同様です。時に仲間との関係が難しくなり思わぬ結果を生じることもあります。先生、親、地域の方々から話してもらったり、書物から学んだりしていますが、いろいろな活動の中で様々な体験をすることこそ本物の規範意識の育みにつながるのだと思います。

今、仲間とのかかわりにおけるトラブルが著しく低年齢化しています。他人との豊かなかかわりを深めるために、学校においては、益々「学級経営に力を入れること」研修を重ねて「子どもの変化に気づく力量を高めること」を校長会や学校訪問で強くお願いしているところです。教職員に限らず、大人が地域や社会で相互にかかわることの再構築にあたり、その姿勢と行動を示すことが、次代を担う子ども達のためになると信じています。

豊かな心を育てるために

～わかり合い、支え合う～

「星の国から孫ふたり」～「自閉症」児の贈り物～

北部中学校(6月23日)、南流山小学校(7月12日)、向小金小学校(11月8日)の体育館で、映画の上映会がありました。地域や保護者の方々を招いた学校もあります。この映画にはおる君とらんちゃんが登場します。この自閉症児と周りにいる人たちのユーモアあふれる愛情いっぱいに関わり方が描かれています。95分間の長い上映でしたが、子どもたちは真剣に見入り、ユーモラスな場面では一緒に笑い映画の世界に引き込まれていました。上映後、子どもたちからは、「優しさがじわじわと伝わってきました。」「これからは誰にでも優しく接したい。」「等の感想が聞かれました。監督の榎坪野鶴子(まきつばたずこ)さんは上映会に必ず来校され、「皆さん小中高、そして社会に出たとき、いろんな人と出会うでしょう。中には、不思議、ちょっと変だなあと思ったとき、この映画のことを思いだし、この人を知りたいな、友達になれたらいいなと思ひ、温かく見守ってほしい。」など子どもたちに向けてメッセージをいただきました。



「老親」

11月2日は、八木北小学校で、家庭教育学級とのタイアップのもと5・6年生と保護者を対象に同監督による「老親」が上映されました。この映画を通して、子どもたちは、自分の家族やお年寄りの気持ちについて考えることができました。監督からは未来を託す子どもたちに向けて「夢を持ってがんばってください」との、メッセージをいただきました。

良い映画に出会い、映画に出てくる人たちと一緒に悩み、考えることで、大切なことが伝わってきます。

ひと声かけよう！「おはよう、ありがとう、すみません」のとびかう ながれやま